

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ハビステ谷山		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37名	(回答者数) 35名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日		2025年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職種ごとの役割が明確になっており、それぞれがしっかり情報共有をしながら利用児の支援を行うことができている。	利用児が活動を楽しめるように、個々に合わせた好きなキャラクターや遊びを取り入れたり、同じ目的でも利用児の活動に対する感じ方が変わり飽きさせない活動を行うように意識をしている。	地域との交流のために公園など地域の清掃活動等を行っている。
2	SNSなどのツールを使ったり事業所の見学など保護者様が相談しやすい環境を作り、情報共有を積極的に行える体制づくりを整えている。	保護者様や園と情報交換・情報共有を積極的に行い、明確な同じ目標を持ってそれに対して支援を行えるように意識をしている。	日常的な、時間の概念の練習から季節に応じたイベントなども積極的に支援に取り入れ、玄関に四季を感じるイラストなど掲示を行っている。
3	担当者会議や職員同士、園、保護者との情報共有が積極的に行われ、利用児への統一した関りができるように働きかけている。	児の特性を把握し、構造化をしたり、見通しを立てるような声かけをするなど落ち着いて行動ができるよう環境調整を行っている。	他事業所や異年齢での交流などを増やせるようにイベントを企画し、実行している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者間での交流機会など検討しているが、実際の場を設けることができていないこと。	交流内容などの検討は行っているが、具体的な場所や日時の目途が付いておらず実施までは至っていない。	今年は、地域交流や児童交流などを行うことができたので、アンケートによる意見を参考に保護者交流の機会を企画して実行したい。
2	各種マニュアルを玄関に掲示し保護者への周知を図っているが、アンケート内容より提示方法としては不十分であった。	マニュアルは数多く存在するため、保護者への説明となると多くの時間を必要とする。今回は玄関への掲示を行ってみたが十分な周知には至らなかった。	ホームページやInstagram等のツールを利用して幅広く保護者へ説明できる機会が提供できるように工夫を行っていく。
3	避難訓練など非常災害の発生に備えた対策の周知が不十分である。	保護者への連絡表などで対策の周知などを行ってみたが、具体的な部分までは周知することができなかった。	避難訓練の実施や緊急時の対処法などホームページやInstagram等のツールを利用して幅広く保護者へ説明できる機会が提供できるように工夫を行っていく。